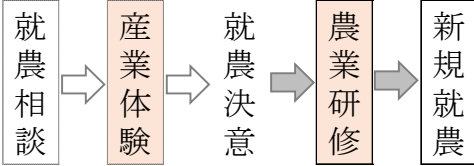


体験・研修希望者の受入先情報の整備・リスト化

1. 取組の背景

(1) 新規就農までのプロセス



新規就農者を安定的に確保するためには、農業が自らの適正に合うか見極める体験や栽培技術を身に付けるための研修を受ける就農予備群を確保することが必要。

(2) 松江地域での取組状況

研修受入先の確保のため、担い手育成協定*の締結を進めているが、品目が定まらないまま研修を始める者や、少量多品目の栽培希望者が増加し、特定の経営体に負担が集中。そのため、新たな研修受入先の確保が喫緊の課題。

*担い手育成協定
 自営就農希望者が、県や市町村と協定を締結した経営体で研修をしながら、独立に向けた農業技術等を習得し、独立自営就農するための制度。
 松江地域の協定先は3経営体

2. 研修生受入先情報の整備・リスト化

松江市農業士会*では、新規就農者の研修受入だけでなく、農林高校、農林大学校など学生と積極的な交流活動を展開。

研修生受け入れの新たな取組として体験・研修希望者と受入先(農業士)とのマッチングを円滑にするため、会員の特徴や研修指導方針等をわかりやすく紹介する受入先情報を作成。

有限会社安藤農園

経営体紹介

| | |
|---------|---|
| 代表者 | 渡部 旭 |
| 所在地 | 松江市和多見町 |
| 従業員数 | 常雇用 1人 臨時雇用 3人 |
| 研修可能な品目 | スロン 12a ミニトマト 12a きょうりょう 8a いちご 6a 外 |

沿革や特徴

- ・日(有)安藤農園の研究農場として開設
- ・研究農場は、野菜や花の苗生産を行うほか、野菜の新品種試験栽培、津田かぶ(等)の伝統野菜の生産も行う
- ・県営(津田)カブ・ゴールデントマト(ご縁玉)の生産、販売のほか、加工品の共同開発も実施

経営者(担当者)からのメッセージ

野菜や野菜・花苗の生産販売をとおして、大型農家、新規就農者、野菜栽培を趣味にしている方、食育を重視する教育機関、定年退職を希望する方など、農園に関係する様々な方を応援している会社です。

新しい農業環境下においては、「何ができる」というチャレンジ精神と、「確かない」という不屈の意志をもって会社経営に取り組みたい。安藤農園の取り組みに協力を感じ、経営方針に共感していただける方をお待ちしています。

独立に向けた研修内容

- 1) 栽培の技術指導
- 2) 経営面の指導
栽培技術習得後、ハウス1棟を管理することにより農業経営を体験してもらいます。
- 3) 独立自営就農に向けた相談
市役所と一緒に就職計画の作成等を支援します。また、多くの農業者や消費者等と積極的に交流できる場を設けたいと考えています。

研修可能な品目と作型

| 品目 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|--------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|
| スロン | | | | | | | | | | | | |
| ミニトマト | | | | | | | | | | | | |
| きょうりょう | | | | | | | | | | | | |
| いちご | | | | | | | | | | | | |

12名(稲3、園芸8、畜産1)が研修生を受け入れ可能とし、研修生受入先情報をリスト化。

研修生受入先情報

*農業士
 優れた農業経営を行いつつ、新規就農者等の育成に指導的役割を果たしている農業者を知事が認定。
 松江市農業士会会員数14名

3. 取組の成果

(1) 研修生受入先情報の活用

就農ガイダンス、就農相談会来場者への研修先の紹介、視察研修資料、インターンシップの受入先選定などに活用。

学生・就農希望者からは、統一された様式で現場の様子もわかりやすいと好評。



農大生との交流会の様子

農林大学校学生との交流会に9名が参加し、その7割が会員のほ場で研修や農作業体験等を行うことが決定。そのうち、2名の学生が研修先での雇用就農を希望。

就農相談会に参加した就農希望者が受入先を訪問し面談するなど、具体的なマッチングに進展。

(2) 松江地域から安来・出雲・雲南地域への波及
 研修生受入先情報の整備・リスト化を東部農林水産振興センター全体での取組に拡大し、情報を共有。



農業士 渡部 旭氏

学生たちの「農業にふれたい」「農家になりたい」という気持ちを大切にしたいので、毎年、研修生を積極的に受け入れています。研修生が描く夢の実現に向け、全力でサポートします。

4. 課題と今後の取組方向

- (1) 希望者の多い少量多品目の研修に対応するため、複数会員のほ場を数か月おきに移動しながら実施する仕組みを構築。
- (2) 受入先の情報を認定農業者まで拡大するとともに、実績のある経営体を順次、担い手育成協定の締結へステップアップ。
- (3) 松江地域で生産拡大を目指す品目を対象に、「包括的就農パッケージ」*の作成。それに係る品目選定から研修体制の充実、農地情報などを収集して関係機関で共有するなど、サポート体制の強化が必要。

*包括的就農パッケージ
 経営モデルや研修体系、農地情報など、研修から就農、その後の経営までをイメージできる情報